

「ホースマンたちの夜明け」

作・渡辺かずのぶ

○登場人物

かしまじゅんいち
鹿島順一

調教師

とうどうはるひこ
藤堂晴彦

調教師

みやべとしふみ

宮部俊文

調教師

くろだたかまさ

黒田高正

馬主

そねりようた

曾根良太

東西新聞取材班記者

くさかさとし

草加聡

デイスポーツ取材班記者

ながの

永野ちか

宝徳新聞取材記者

こてがわまき

小手川真希

馬コレ新聞記者・エージェント

たつみこうせい

立見恒星

騎手

「ホームズマンたちの夜明け」

美浦トレーニングセンター、二階調教師スタンド。

2段のひな壇が舞台中央にある。ひな壇の上にパイプ椅子などを置き、スタンド席に見せる。スタンド中央は通路になっていて空いている。

客席側は、トレーニングコースという設定。

一段目に調教師の鹿島順一。二段目に同じく調教師の藤堂晴彦が座っている。鹿島はボード版の資料を置いて、双眼鏡で調教の様子を見ている。

藤堂は、双眼鏡を脇に置き、ボード版の資料を眺めている。

時間は午前6時。

宮部俊文調教師、下手から現れて、ひな壇の2段目に座る。同じくボード版の資料と双眼鏡を持っている。

宮部 おはようございます。

藤堂 おはようございます。

鹿島 (双眼鏡を眺めている) ……。

宮部 あいかわらず過疎ってるなあ、調教師スタンド。

藤堂 今日は火曜日。追切り(おいきり)もなし。

宮部 といっても、トレセンにいる馬は出走まじかなわけだから調教は見るもんだと思うけどね。

藤堂 休養馬見て、レースのローテーション組むのを重視してるんだろ。

宮部 調教師は本戦に向けて、レースに出す馬をしっかり見るべきだと思うけどね。

藤堂 競走馬が怪我した場合、それは俺たち調教師の責任だ。

宮部 俺もそう思う。

鹿島 うーん……。

藤堂 (鹿島に) どうした？

鹿島 いや、1勝クラスで出そうとしてる馬がいるんだけど、ちよつと太いな。明日の追切り、一杯にするかなあ。

藤堂 どれ、何番？

鹿島 ゼッケン66。

藤堂 馬場は？

鹿島 ウッドチップ。

藤堂、双眼鏡で走っている馬を双眼鏡で追う。

藤堂 ああ、あいつかあ。ちよつと脚が重いか……。

宮部 藤堂先生は、他の馬の厩舎も管理するつもりらしい。

藤堂 そんなわけない。敵情視察。

鹿島 敵情視察？

藤堂 おれも来週1勝クラスに出走させるから。

鹿島 3歳馬？

藤堂 そう。

鹿島 だったら、予想は、日曜の東京6レース。

藤堂 勝負だね。

鹿島 勝たせてもらうわ。

藤堂 いや、そうそう簡単にこっちも引けないんでね。

鹿島 まあ、お互いに、出走除外（しゅっそうじょがい）

されないことを願うばかり。

宮部

抽選制度どうにかならんかなあ。仕上げたってレース出れなかったりするんだからさあ。

鹿島

当分、変わらないでしょ。

宮部

調教師会としてさあ、それは本部にもっと強く言わないとだめだよなあ。

藤堂

会長とかは強く提言してるみたいだけどね。強い馬が抽選で出れないっていうのは、レースのクオリティを下げてる。

鹿島

優先出走権、手に入れるために、馬に合っていない距離のレースにも出さなきゃいけない。

藤堂

地方競馬が廃（すた）れて、中央競馬で走る馬が多くなった。馬が多くなったにも関わらず、レース数は旧来通り。そりゃ出れない馬も出てくるわ。

宮部

いつものおれたちの愚痴だな。

鹿島

うん。

三人の調教師、双眼鏡で調教を見る。

ブーというサイレンが鳴る。

宮部 落馬か。どこ？

鹿島 ダートコース。向こう正面。

藤堂 火曜は制御きかない馬もいるからな。

宮部 大丈夫か？

藤堂 すぐ立ち上がってるから大丈夫だろ。

鹿島 放馬（ほうば）したな。ありゃあ、捕まえられないわ。

宮部 イレ込み（いれこみ）激しいな。

藤堂 昨日休みだからな。

宮部 調教助手だった頃は、火曜はほんと憂鬱だった。

藤堂 それはおれも同じ。月曜は馬房に閉じ込められて、馬もうっふんたまってるからな。制御不能。

鹿島 あのサイレンの音、いやなんだよなあ。

藤堂 自分がミスったって感じになるからな。

鹿島 あを感じたと二、三周、コース走るかもな。

宮部 で、地下通路に入って厩舎まで自分で戻る。

藤堂 賢いんだよなあ、そういうとこ。

鹿島 うん。

宮部 おつ、鹿島先生自慢のマドレア出てきたじゃん。

鹿島 うん。

宮部 次、宝塚行くんでしょ？

鹿島 うん、出すね。

宮部 まあ、相手は強いけど、マドレアなら十分チャンスあり。

鹿島 うん。

藤堂 次もラドクリフ乗せるのか？

鹿島 その予定。

宮部 突っ込んで聞いちゃうけど、前走（ぜんそう）の大阪杯、立見下ろしたじゃん。なんで？

鹿島 まあ、いろいろ考えてさ。立見より、ラドクリフのほうがいいと思ったんだ。

藤堂 あの手で海外行くのか？

鹿島 うん、そのつもりだ。

宮部 立見じゃだめなのか？

鹿島 海外って考えると、海外に慣れてるジョッキー乗せたくない。

宮部 経験値の問題か。

鹿島 うん。

藤堂 いまは、外国人騎手、頼りになるからな。あいつら

じゃないと、動かないくらい馬が強くなってる。

宮部 でも、おれは正直、立見で海外挑戦してほしかったわ。このままじゃ日本のジョッキー、腕上がらないよ。

鹿島 ……。

藤堂 でも、競馬は勝ち負けの世界だからな。調教師も非情にならなきゃいけない部分もある。

宮部 立見、関東リーディング7位だよ。去年より成績は落ちたとはいえ、十分能力を発揮してる。

藤堂 立見、もういくつになった？

鹿島 34だったと思うな。

藤堂 もう34歳になったか。脂（あぶら）が乗り切つてるところだな。

宮部 あいつはポジション取りも仕掛けも申し分ない。きっちり差し切ってくれる。ここぞ、勝負つてときは立見だよ。

藤堂 そうだな。おれもずいぶん世話になってる。

宮部　ねえ、鹿島先生さあ、立見なら海外でもやれると思

うんだけど……。

鹿島　うん、何もなければ。

宮部　何もなければ？

鹿島　そう、何もなければ……。

藤堂　なんだろうな、その意味深（いみしん）な言い方。

鹿島　最近、あいつは勝ちを急いでる。例年ならラドクリ

フとリーディングを争ってるのが立見だろ。それ

が、今年は7位だ。

藤堂　勝ちを急いでる、か……。

宮部　今年はおれと同じでたまたま立見も勝てないレース

が続いてるだけだろ。G1だって、15勝以上して

るだろ。今じゃ日本を代表する騎手だ。

藤堂　宮部先生は、立見がひどくお気に入りだな。

宮部　そりゃ、私の厩舎出身だしね。今年の成績がちよっ

と落ちたからって、このまま下がっていくような騎

手じゃない。またトップ争いに戻ってくるさ。

藤堂　うん、確実に戻ってくる。

鹿島　普通に考えれば、そうだ。

宮部　なら、なんでマドレアから立見下ろした？ デビュー

ーのときから、マドレアには立見がずっとつきつき
りで調教もつけてただろ？

鹿島　うん。

宮部　騎乗ミスして乗り替わりならわかるけどさ、あいつ
失敗してないじゃん。

藤堂　宮部先生、そのへんにしておこうよ。鹿島先生には
鹿島先生の考えがあるんだろうから。

宮部　でもさあ、なんか納得いかないんだよな。

鹿島　宮部先生には悪いけど、おれはベストな判断をした
と思ってる。

宮部　そうかあ。

藤堂　今年の関東リーディングのトップを走っている鹿島
先生が言うんだから、こっちは何も言えない。鹿島
先生、今年厩舎何勝目？

鹿島　20勝目。

宮部　勝つねえ。うらやましいわ。おれ、まだ9勝。

鹿島　藤堂先生だって、相当勝ってるでしょ？

藤堂　16勝目。

鹿島 うかうかしてたら抜かされるわ。

宮部 今年、ほんと勝てないわ。

藤堂 宮部先生が弱気になるなんて珍しいね。

宮部 いつも弱気だよ。この馬にこの調教で合ってるのか？ レース選択は正しいのか？ 芝じゃなくてダートのほうが合ってるんじゃないか？ ローテーション間違えたんじゃないか？ 騎手はあいつで良かったのか？ いつも悩んでる。

鹿島 そんなこと言ったら、俺だって、飼い葉（かいば）にもっと改良加えたほうがいいんじゃないか？ 放牧（ほうぼく）に出すタイミングはこれで良かったか？ 馬に水素水飲ませたほうがいいんじゃないか？ いつも考えてる。

藤堂 水素水ってどうなんだ？ あれ、効果あるのかな？

鹿島 馬は馬体（ばたい）の70%が水。馬が一日に飲む水は30リットル。水は大事に決まってる。

藤堂 だったら、水素水、試したら？

鹿島 水素水しか飲まないってなったら、どこに行くにも水素水、用意しなきゃならない。手間がかかりすぎ

る。

藤堂 G1(ジーン)勝つ確率が上がるのかどうか。

宮部 G1、勝ちたいねえ。

藤堂 そしてゆくゆくは、凱旋門賞。

宮部 世界最高峰レース。

藤堂 (鹿島に)行くのか、凱旋門賞。

鹿島 マドレアが次の宝塚記念に勝てば、そういうプランが出てくる。

宮部 行ってほしいな、凱旋門賞。

藤堂 もし、勝てれば、日本の競馬も世界最高峰レベルだと胸を張って言える。

鹿島 うん。

藤堂 海外でも勝てる馬、探さないとな。

宮部 宝塚終わったら、セレクトセールだな。

鹿島 いい馬、みつけたか？

藤堂 まあね、何頭かは絞ってる。

宮部 いい馬、作るのは大事だが、まずは走る素質がある馬をみつけないとね。

鹿島 マドレアもセレクトセールで買い付けた馬だった。

宮部 高い馬が走るかといえば、そうじゃないからな。調

教師の相馬眼（そうばがん）が試されるわけだ。

藤堂 今年もスペシャリスト産駒（さんく）がすごいだろうな。欲しくてしょうがない馬主（ばぬし）がたくさんいる。

鹿島 今年のクラシック戦線は、ほとんどがスペシャリスト産駒だった。来年も嵐が吹き荒れるだろうな。

宮部 圧倒的な数の強力馬（きょうりよくば）、輩出（はいしゅつ）するからなあ。

藤堂 あとは馬主さんの懐具合（ふところぐあい）って感じだな。

宮部 去年、最高落札馬、いくらだったか？

鹿島 2億。

宮部 まあ、スペシャリスト産駒なら、そんなもんだろな。今年もうちに一頭はほしいなあ。いい馬が来ると厩舎（きゅうしゃ）も盛り上がるから。

藤堂 うちもほしい。

鹿島 おれもほしい。

宮部 みんなほしい。セレクトセールから勝負は始まって

る。

藤堂　いくら調教師が鍛えると言つても、元々持つてる素

質以上に育てるのは無理だからな。

鹿島　その素質を伸ばせるか、伸ばせないか、それはおれ

たちの腕にかかつてる。

宮部　今年の鹿島先生に言われると説得力あるねえ。

藤堂　確かに。

宮部　（鹿島に）マドレア、宝塚勝ったら、G1何勝目

よ？

鹿島　7勝目。

宮部　強いなあ。そしてうらやましい。

藤堂　おれも久しくそんな馬、育ててないわ。

鹿島　無事は名馬（ぶじこれめいば）だよ。マドレアは強

い調教かけても故障しない。オトコ馬にも動じない

強いハートも兼ね備えてる。自分で育ててても、強

い馬だなあ、と日々思うよ。

宮部　ゴーサイン出たときの瞬発力、半端ないもんな。

藤堂　あの爆発力はたまげるわ。

鹿島　牝馬（ひんば）ならではの切れ味だよ。

宮部 世間同様、牝馬も牡馬（ぼぼ）に勝てる時代になった。昔は牝馬が牡馬に勝つなんて無理だったもんなあ。

藤堂 競馬の世界でも女が強い。不思議とな。

宮部 どうしてあんな強くなったかなあ。

鹿島 それが、わからないんだよなあ。

藤堂 さすがの鹿島先生も読み解けないか。

宮部 正直、おれもわからん。

藤堂 宮部先生、分析派でしょ。お願いしますよ。

宮部 強いてあげるなら、牝馬が総じて大型化してきたこと。最近の牝馬は体格が大きい。500キロ超えてくる馬もざらにいる。大型化したことで、オトコ馬に体力負けしなくなってきた。そういう仮説は立てられる。

藤堂 （鹿島に）マドレア、何キロだっけ？

鹿島 4歳のいまで480キロ。まあ、牝馬では大きいほうか。

藤堂 480か。そんなあったか。

宮部 大きいだけじゃなくて、フォームもいいもんなあ。

ありゃあ、車で例えるならフェラーリ。

鹿島 うん、フォームはいい。美人だわ。うるさいから嫁

にしたいタイプじゃないけどな。

藤堂 気のいい馬ってことだわ。そのうるささが、最後の

直線の爆発力になってる。

鹿島 うん。

宮部 こないだ若手の新聞記者が厩舎に取材に来てさ、あ

れは気のいい馬だからって言って、出してやった

ら、蹴っばるわ、首は振るわで驚いてたわ。

鹿島 競馬の専門用語だからな。気のいい馬は気性が荒い

馬のこと。

宮部 そうそう。

藤堂 宮部先生もいじわるだなあ。

宮部 いや、その、気のいい馬を見たいっていうからさ。

鹿島 まあ、いい勉強になったんじゃないか。

宮部 と、思う。

藤堂、双眼鏡をコースに向けて、

藤堂 おつ、うちの連中も出てきた。今日も怪我なく人も

馬も無事に厩舎に帰ってくるように。

鹿島 いつものやつだな。

藤堂 本気で願ってる。

馬主の黒田高正が黒いスーツ姿で入ってくる。

黒田 いやあ、みなさん、おはよう！

宮部 あつ、黒田さん。

黒田 宮部先生、おはようございます。

鹿島 (黒田に) おはようございます。

藤堂 (黒田に) おはようございます。

黒田 おつ、中央競馬の三銃士さんたちが三人お揃いですか。(外を見て) いやあ、いつ見ても壮観(そうか)ですな。毎日2000頭の競走馬たちが、ここでトレーニングに励んでいる。まさに日本最大のトレーニングセンターだ。

藤堂 黒田さんがトレセンに来るなんて珍しいですね。

黒田 いやね、今日火曜日でしょ。ほんととは明日の追切

（おいきり）を見たかったんですけどね、明日は予定が入ってましてね。

宮部 見に来たのは、やはりマドレアですか。

黒田 メインはね。でも他の所有馬も久しく見に来てなかったもので、そちらも見るともりです。それで鹿島先生、さっそくですが、マドレアはどうですか？

鹿島 調子は悪くありません。宝塚にはいい形で持っています。そうです。

黒田 さすがだ。関東リーディングトップの先生だけのことはある。

鹿島 秋には海外遠征が控えています。宝塚が終わったら、短期放牧に出して、凱旋門賞に直行します。

黒田 すべて鹿島先生にお任せしますよ。

鹿島 ありがとうございます。

黒田 騎手はそのままラドクリフかな？

鹿島 その予定です。

黒田 楽しみだねえ、秋が。

鹿島 最善を尽くします。

黒田 うん。調教見せてもらっていいかな？

鹿島
もちろんです。

黒田、ひな壇の二段目に座る。

黒田
晴天（せいてん）だねえ。今日は調教日和だ。

宮部
あの黒田オーナー、すいません。先日は負けてしま
いまして。

黒田
ああ、フラップジャックですか。まあ、天候が良く
なかったからねえ。あの馬は今日みたいな晴天でパ
ンパンの馬場が合ってる。致し方ないでしょう。

宮部
調子は引き続き悪くないので、再来週にはまた使
います。

黒田
わかった。

藤堂
黒田オーナー、ロックオンザデイですが、デビュー
少し遅らせます。ソエが出ました。

黒田
ソエかあ。まあ、若駒（わかこま）の風邪みたいな
もんだ。しっかりしてから出してください。

藤堂
わかりました。

黒田
資質はどう？

藤堂 血統もいいですし、背中も柔らかいと評判です。来

年のクラシックに何とか間に合わせたいと思っ
てます。

黒田 うん、私もあの馬には期待してるからねえ、頼みま
すよ。

藤堂 はい、ご期待に応えられるよう頑張ります。

黒田 もうここにいるお三方（さんかた）には、注文は何
もつけないからしっかりやってください。

宮部 信頼していただいて助かります。

黒田 うん。

黒田の携帯電話が鳴る。

黒田 ちょっと、失礼。電話だ。なんだこんな朝っぱらか
ら。（スマホを見て）鮫島さん、、、ん？

黒田、スタンドを下りて、下手に去る。

藤堂 宮部先生、いま黒田オーナーなんて言っ
てまし

た？

宮部 電話だつてさ。

藤堂 いや、電話じゃなくて相手。

宮部 鮫島さんって言ってたけど。

鹿島 鮫島オーナーじゃないか？ 馬主協会の理事長。

宮部 ああ、鮫島オーナーか。こんな朝早く何かね？

鹿島 さあ、それはさすがにわからないけど。

藤堂 6時半か。何か緊急の要件とかか。

藤堂の携帯が鳴る。

藤堂 そんなこと話してたら、俺にも電話だ。

鹿島 誰から？

藤堂 （携帯を出してみて）ん？ 嵐山先生だ。

鹿島 嵐山先生？

藤堂 珍しいこともあるもんだ。

藤堂、電話に出る。

藤堂 はい、藤堂です。おはようございます……南馬場の

調教師スタンドです……大事な話？……わかりました。

藤堂 立ち上がり、

藤堂 大事な話らしい。ちょっと行ってくるわ。

藤堂、スタンドから降りて、出て行く。

宮部 嵐山先生から大事な話ってなんだろう？

鹿島 調教師協会の理事から電話かあ。

宮部 そうだね。

鹿島 なんか、変だな。

宮部 何が？

鹿島 二人ともお偉いさんから、電話が来てる。

宮部 たまたまじゃないの？

鹿島 たまたまだったらいいんだけどな。

また携帯電話の音が鳴る。

鹿島
ほらっ、今度は俺だ。

鹿島、スマホを取り出して、

鹿島
はい、鹿島です……はい……何か大事な話ですか？
……急ぎですよ……じゃあ、場所移して折り返します……はい。

鹿島、電話を切る。

鹿島
こっちは、大八木先生からだ。

宮部
今度は調教師会の会長か。

鹿島
おれの予想だけど、宮部先生にも誰からかかってくる。

宮部
えっ、面倒事は嫌いだよ、俺。

鹿島
とりあえず俺は一旦、席外すわ。

宮部
うん、会長からの呼び出しなら急いだほうがいい。

鹿島　じゃ、またあとで。

宮部　はいよ。

鹿島、スタンドから下りて、上手側に去る。

宮部の携帯が鳴る。

宮部　ほんとに来た。

宮部、電話に出る。

宮部　はい、宮部です……おはようございます……急ぎの

話ですよ。場所移します……わかりました。

宮部、スタンドを下りて、下手側に去る。

照明が暗くなり、誰もいなくなったスタンドに騎手の立見恒星が思いつめた表情で入ってくる。風の音がビュービューと流れはじめる。

立見

父さん、母さん……。

立見恒星、ゆつくりとスタンドの中央部の階段を上る。二段目まで来ると、靴を脱ぎ、右に揃える。背中を見せて立っている立見。

立見、両腕を伸ばし、しばらくするとそのまま飛び降りる。ドサッという衝撃音が響く。

中央新聞記者の曾根恒久がスタンドに駆け込んでくる。スタンド3段目に置かれた靴を拾い、スタンドを下りると、じつくりと靴を凝視する。スタンド裏側の見えないところに靴を静かに置く曾根。

照明が地明かりに戻る。正面に戻ってきて無人のスタンドを振り返って見る曾根。

曾根

くそっ、早いな。情報統制か。

デイスポーツ記者、草加聡が駆け込んでくる。

草加 あっ、曽根さん。

曽根 草加さんですか。さすがに早いなあ。

草加 俺より早かった曽根さんもさすがですよ。

曽根 最初に行くなら、ここですよ。

草加 そう、ここ。立見騎手と付き合って来た先生たちがいる。

曽根 毎日、座る場所は、だいたい決まってる。

草加 でも誰もいないね。

曽根 情報統制ですよ。

草加 情報統制？

曽根 余計なこと言わないように、上から圧力かけてる。なるほど。そういうわけですか。

曽根 トレーニングセンターに入れるのは、関係者のみ。

外から入ってくるのは無理。

草加 そしたら、元々競馬取材班のおれたちが立見騎手の自殺について調べるしかない。

曽根 そういうことですよ。

草加 今日の朝刊には間に合わない。

曽根 発表が先ほどでしたからね。事件は昨晚正午ごろ。

草加 夕刊に間に合わせる。

曽根 かけずり回るしかありませんね。何か手がかりを探さないと。

草加 立見騎手は、元々宮部厩舎の見習い騎手だった。何か聞いてるかもしれない。

曽根 私は、やはり鹿島先生ですね。マドレア、乗り替わりさせたでしょ。あれが気になる。

宝徳新聞の永野ちか、が入ってくる。

永野 曽根さん、騎手の世界で有力馬から、下ろされるのは日常茶飯事（にちじょうさはんじ）のこと。そんなことでの立見騎手が自殺するとは考えられない。

草加 （永野に）宝徳（ほうとく）新聞のエース来たね。

曽根 （永野に）綿密な取材と、展開予想の勘の良さで、馬券的中率脅威の26パーセント。先日、記事みましたよ。

永野 たまたまです。

草加 いや、実力だな。

曾根 これで東西新聞、デイスポーツ、宝徳新聞が揃ったわけだ。これは負けられない。

草加 立見ジョッキーの訃報に、涙を流している暇もない。

永野 私と同年代でしたけど、真面目で紳士で、腕もあって、素晴らしい騎手。取材しようとしている自分がまだ信じられません。

草加 俺だって、悪い夢でもみてるのかなって思うよ。

曾根 茨城県警から正式発表があったのが1時間前。現場の状況から事件性はないと見て自殺と断定。いまのところ遺書などはみつかっていない。

草加 まさか、自宅マンションから飛び降りるなんて。今年でも信じられない。今年は、去年の勢いはないものの関東リーディング7位。これから日本競馬会をしようって立つ存在だった。

永野 その有望株が、突然の自殺。これは何かある、と私は思ってます。

曾根 誰がネタ握るか、勝負。

草加　夕刊はズバツと私が出し抜いてやりますよ。

永野　すごい自信。

草加　言霊（ことだま）は現実になるっていうからね。

曾根　じゃあ、私が出し抜きますよ。

永野　いえ、私が出し抜きます。

曾根　仕事だと、腹をくくってやるしかない。

草加、永野うなづく。

険しい表情をした黒田が戻ってくる。

3人の記者をにらみつけてから、スタンドの

二段目に座って、両腕を組む。

曾根　黒田オーナー。

……。

曾根　珍しいですね、美浦（みほ）に来るなんて。

黒田　久しぶりに自分の馬を見に来ただけだ。

草加　黒田オーナー、草加です。

黒田　ああ、君か。

永野　黒田オーナー、永野です。

黒田 君もか。どうした、こんなところに集まって。

曽根 単刀直入に申し上げますが、立見騎手のことはお聞きになりましたか？

黒田 ああ、立見君か……。

曽根 聞きましたね？

黒田 もし、私が何か知ったとしても、言えることは何もない。私に何か質問しても無駄だぞ。本当にな。

草加 あの、他の先生方は？

黒田 知らん。

草加 オーナーから見て、最近、何か立見騎手に異変などはありませんでしたか？

黒田 異変？

草加 ええ、何かいつもと違うなあ、というところは？

黒田 ない。

永野 マドレアの主戦を今年度から、替えた件についてはどう思われますか？

黒田 それは鹿島先生が判断したことで、私からは何も言っていない。聞くなら鹿島先生に聞きなさい。

永野 騎乗ミスなしでの乗り替わり。オーナーは鹿島先生

から事情を聞いていると思いますが？

黒田

それは他の報道でもあるように、海外遠征を見据えてのラドクリフ君への乗り換えだ。

永野

他の理由はないと？

黒田

そういうことだ。いいか、君たち、私が立見君を殺したんじゃないか、というような視線はやめなさい。競馬は勝負の世界だ。賞金で何億もの金が動く。鹿島先生が勝てる選択をしたなら、私に異論はない。

永野

では、マドレアの乗り替わりの理由は、海外遠征経験豊富な外国人ジョッキーにしたかった、ということ以外はないわけですか？

黒田

他に何の理由があるって言うんだ？

曾根

おかしいんですね？

黒田

は？

曾根

黒田さんはオーナー歴10年以上、保有競走馬は現役だけでも30頭以上。私もずっとオーナーを見続けてきましたが、あなたはオーナーの中でも非常に義理堅い人だ。騎手、厩舎、関係者のつながりと

でも大事にする。そのあなたがG1レース7勝を導いた立見騎手を簡単に下ろすことを承諾するのはおかしいとずっと思っていました。本当に海外を見据えただけでの乗り替わりなんですか？

黒田

……。

曾根

鹿島先生が騎手を替えると言ってもオーナーが首を縦に振らなければ乗り替わりはできない。

黒田

……。

曾根

黒田オーナー、他に理由があるんじゃないですか？

黒田

ない！

曾根

……。

黒田

私はね、基本的に騎手や出走レースについて、口は出さない。なぜなら調教師は競馬のプロだからだ。

私は馬を持っているというだけでその道のプロだとは思っていない。だからすべて任せる。そういうことだ。

曾根

……。

黒田

それとね、義理堅いのは私じゃありませんよ。私が馬を預けている先生方が義理堅いんです。そして私

もそれに口出しをしない。だから、義理堅いように私が見えるだけです。

曾根

では黒田オーナーは、マドレアの騎手変更については何らの疑問も抱かなかったということですか？

黒田

初めはびっくりしましたよ。立見君で行くもんだと思ってたからね。鹿島先生は海外で勝つために究極の選択をした。そう理解してる。

永野

反対するつもりもなかったんでしうか？

黒田

国内のレースで使っていくということであれば、さすがに反対したかもしれない。でもね、海外レースに向けて外国人騎手に乗り換えさせるのは珍しいことじゃない。君たちも散々、見てきてるでしょ？

永野

……。

黒田

はい、これで私への取材終わり。私もね、立見君との思い出はたくさんあります。馬場（ばば）を見れば、立見君がどこかの馬に乗っているかもしれないと思ってます。これからこの双眼鏡で探す。

黒田、ビジネスバッグから、双眼鏡を取り出

して馬場を見始める。

鹿島がスタンドに戻ってくる。

草加
鹿島先生！

永野
鹿島さん！

鹿島、険しい表情で、無言でスタンドの上手
側の二段目に座る。

曾根
鹿島さん……。

鹿島
……。

曾根
鹿島先生、聞いてますよね？

鹿島
今しがた、連絡があったところだ。

曾根
自殺の原因は何だと思われませんか？

鹿島
そんなのおれにわかるわけないだろう。

草加
マドレアの件じゃないですよね？

鹿島、草加を睨み付けて、

鹿島 立見がそんなことぐらいで、自分で命絶つわけない

だろう！

草加 では、どうして命を？

鹿島 わからないと言ってるんだ！ 記者席に戻れ！

曾根 戻るわけないでしょう。今日の午前中も午後もテ

レビではこの自殺は速報として伝えられるはずで

す。スポーツ新聞のほぼすべてが夕刊の一面は立見

騎手の自殺記事です。中堅でスター騎手。腕も良け

ればルックスもいい。常にリーディング争いの上

位。通算勝利数1558、G1レース26勝、文

句なしの一流ジョッキーです。

鹿島 そんなことは説明されなくてもわかってる。

曾根 紙面で賑わうのは、自殺したこともそうですが、な

ぜ、自殺したのかという原因です。

鹿島 君たちは競馬記者だろ。スクープ追ってどうする。

草加 鹿島先生、報道班はこのトレセンには入場規制で入

れません。私たち、競馬記者が取材するしかないん

です。

永野 何か自殺につながる思い当たることありませんか？

鹿島
……ない。

曾根、鋭い視線を鹿島に向けている。

永野
少し前から気になっていることがありました。

草加
気になっていること？ 永野さん、何か知ってるの？

永野
いえ、自殺につながっているかどうかはわかりませんが……。

永野、ノートパソコンをリュックから出して
鹿島に差し出す。

永野
鹿島先生、これ見てください。去年、立見騎手が鹿島厩舎の馬に乗った騎乗数です。

永野、鹿島にパソコン画面を差し出す。

永野
6月時点で鹿島厩舎の馬に乗った騎乗数は、64鞍

(くら)。

鹿島　それがどうした？

永野　そして、これが今年の騎乗数です。31鞍。ほぼ半分
分に減ってます。

鹿島　今年の立見は調子が去年より良くなかった。焦りが
出て勝ちを急いでた。だから減らした。

永野　なぜ焦りが生まれるんです？

鹿島　成績が伸びなかったからだろ。

永野　なぜ、成績が伸びなくなりました？

鹿島　そんなことを聞かれても俺にはわからない。

草加　永野さん、成績不振で自殺はないんじゃないの？

永野　私は、成績不振に陥った原因を知りたいんです。成
績不振とは言っても関東リーディング7位。極端に

悪くはない。これで自殺はありえない。

草加　永野さん、何か刑事みたいだね。

永野　冗談で言ってるわけではないんです！

草加　ごめん、ごめん。

藤堂が戻ってくる。藤堂平然とした表情で、

記者たちには目もくれずスタンドの一段目に
座る。ため息をつく藤堂。

草加 藤堂先生、おはようございます。

藤堂 おはよう。

永野 (藤堂に) おはようございます。

藤堂 おお、おはよう。

曾根 おはようございます、藤堂先生。

藤堂 おはようさん。

草加 藤堂先生、こんな朝から申し訳ありませんが、立見
騎手のこと聞きましたか？

藤堂 ああ、今、電話で聞いた。

草加 どう思われます？

藤堂 何が？

草加 自殺の原因です。

藤堂 そんなこと急に言われてもなあ、おれにはわからない。
い。あとな、今、聞いたばかりで実感がない。あい
つはたぶん、どこかの馬に乗ってる。

草加 いや、先生、これは県警からの発表で、間違い

はないと思います。

藤堂 うん。

草加 何か心当たりはありませんか？

藤堂 ないね。

草加 何も言うな、と上から言われましたか？

藤堂 さあ、どうだろう。

草加 確かに憶測は、混乱を招くだけですから、発言は控えたほうが良いという判断はわかりますが、これでは立見騎手は謎の死になってしまいます。私たちは真実を知りたいんです。

藤堂 真実？

草加 憶測ではなく、あきらかにおかしかったということがあれば、知りたいです。

藤堂 ……。

曾根 何も教えていただかないとなると、こちらの情報だけで書くしかありません。

藤堂 何の情報だ？

曾根 立見騎手の薬物疑惑です。少し前から流れてました。テンションがおかしい時があると。

藤堂 死人に鞭打つようなことはやめろ！

曾根 それなら、知ってる情報教えてください。

藤堂 おれは本当に何も知らない。

曾根 今のままだと薬物死の疑惑で一色になります。

永野 ちよつと待ってください。その薬物疑惑の件、掘り下げさせてください。本当なら、それが原因ということもありえます。

藤堂 違う！

永野 違うとは？

藤堂 ……。

鹿島 騎乗フォーム。

永野 騎乗フォーム？

鹿島 知ってるだろ。今年に入ってから、立見はいままで
のモンキースタイルから、トントン騎乗に変えた。

草加 確かに。

鹿島 なぜ変えたのか、おれは理由を聞いてない。競馬関係者の誰かには話しているかもしれない。それを探れ。

草加 藤堂先生は騎乗フォーム変更の件、理由は聞い

てないんですか？

藤堂

聞いてない。反対したけどな。モンキースタイルよりトントン乗りは、競走馬への負担が大きい。本来なら立見が一番嫌がる乗り方だ。

曾根

鹿島先生は何か聞いてないんですか？

鹿島

聞いてない。

曾根

なぜ？

鹿島

勝率を上げるために変更したと思ったからだ。

曾根

本当に何も聞いてないんですね？

鹿島

聞いてない。

草加

一階だ。一階に行こう。厩務員（きゅうむいん）と調教助手がいる。何か聞いているかもしれない。

草加、永野、駆け去る。

曾根も駆けていくが、一度止まり、鹿島の表情を振り返ってから去る。

宮部が戻ってくる。

宮部、調教師スタンドの二段目に座る。

宮部 信じられない。

藤堂 宮部先生もやはりそちらのほうの電話でしたか。

宮部 うん。

藤堂 先ほどまで記者たちが来てたところです。

宮部 立見は自分で死ぬようなやつじゃない。どうして

だ？

鹿島 ……。

宮部 何があった、あいつに。

鹿島 宮部先生には、話してると思ってた。

宮部 何を？

鹿島 病気の話。

宮部 私は何も聞かされてないよ。

鹿島 黒田オーナーは知ってる。

黒田 うん、鹿島先生から聞いた。

藤堂 何の話だ、俺にも教えてくれ。

鹿島 立見がおれに相談に来たのは一年前のことだ。

スタンド暗くなり、舞台前面が明るくなる。

立見が入ってくる。

鹿島が立ち上がる。

（回想）

立見 鹿島先生、ちょっと話があります。

鹿島 どうした急に。

立見 大事な話です。鹿島先生、少し気付いていませんか？

鹿島 お前、調教でもレースでも、最近、よく鞭落としてるな。どうしたお前らしくないぞ。鞭さばきの名人と言ったらお前だろ。

立見 手に力が入りません。右手に違和感が。

鹿島 違和感？

立見 はい、筋肉がやせて行ってます。

鹿島 早く病院に行け。

立見 行きました。先日、検査結果が出ました。

鹿島 どうだった？

立見 難病にかかりました。

鹿島 難病？

立見 進行性の病気です。今は右手だけですが、そのうち

体全身の筋肉が動かなくなるそうです。

鹿島
……。

立見
話すのはだいぶ悩みました。でも、私に信頼を持つてたくさんの方に乗せていただいている鹿島先生には話そうと思いました。隠し通すわけにはいいかな。

鹿島
全身が動かなくなったら、お前……。

立見
はい、もう騎手はできなくなります。

鹿島
どれくらいもつんだ？

立見
人によって違うそうです。2年から5年。

鹿島
最後はどうなる？

立見
呼吸もできなくなり、人工呼吸器が必要になるそうです。

鹿島
……。

立見
ひとつお願いがあります。

鹿島
何だ？

立見
マドレアから私を下ろしてください。ベストパフォーマンスが出来なくなった以上、私を使うべきではないと思います。

鹿島 馬鹿言うな。あの馬はデビューのときから、ずっと

お前がほれ込んで育て上げた馬だろう。

立見 で、あればこそです。あの馬にはズバ抜けた資質が

あります。その資質の邪魔を私がするわけにはいかないんです。

鹿島 お前、動かないのは右手だけか？

立見 今のところはそうです。

鹿島 鞭は打てるな？

立見 打てます。

鹿島 だったら、すぐには下ろさない。病氣と戦え。マドレアと一緒に戦え。

立見 先生……。

鹿島 黒田オーナーには秋の二戦が終わってから話す。それまではお前が乗れ。行けるか？

立見 ……先生、おれは正直、悔しいです。まだまだ

これから、たくさん馬に乗りとうと思ってました。

鹿島 乗れる！ 薬とかはあるのか？

立見 病気の進行を遅らせる薬はあるそうです。すでに処方されました。

鹿島　じゃあ、なおさら、様子見だ。簡単に敗北宣言する

んじゃねーぞ。お前は一流ジョッキーだ。

立見　死ぬ気で頑張ります。

鹿島　死ぬな！

立見　このこと周りにはまだ話さないでください。

鹿島　わかった。

立見、深くお辞儀をして去る。

地明かりに戻る。

鹿島　真面目でストイックだから、俺に全部話してきた。

こんな事態になったら、隠し通すやつもいるだろうに。

宮部　それが立見だよ。

藤堂　病気にかかっていたなんておれは知らなかった。

黒田　私もね、最初に聞いた時は、シヨックでね。彼とはずいぶん海外の競馬について、夢を語り合った。マドレアも当然、立見君で行くつもりだった。

鹿島　万全を期す、という意味で、海外レースは乗り替え

にした。たぶんトントン乗りに今年から変えたのは筋力が弱って、前のフォームじゃ馬を押せなくなっただからだ。

宮部

そういうことかあ。

鹿島

立見の事情も知ってるし、フォーム変更については何も言わなかった。

藤堂

立見……そんなことならおれにも相談してほしかったわ。何か手伝えることもあったかもしれないのに。

黒田

マドレアに乗ってたから、鹿島先生にはすべて話したんでしよう。

宮部

そうになると自殺の原因はその病気か……。

黒田

まったく関係ないってことはないんじゃないか。病気を苦に自殺する人は、現実のところ多い。

藤堂

鹿島先生、その件どうするんだ？

鹿島

どうするって言われても、おれの口から言うべきことか迷う。

藤堂

うーん。

宮部

記者たちは、その病気の件については？

鹿島 いや、まだ何も知らない感じだった。

宮部 話したのは鹿島先生だけか？

鹿島 いや、わからない。

藤堂 記者が言ってた薬物疑惑が気になる。

宮部 ……確かに、噂にはなってた。

鹿島 あいつ、薬物なんて本当にやるかなあ。

宮部 いや、でも……。

藤堂 宮部先生、何？

宮部 あいつは、騎手としてのポテンシャルを維持するために酒もたばこもやらない。ストイックで騎手の鏡だけど逃げ場がない。特にそんな病気にかった日には……。

藤堂 立見を疑うのか、宮部先生。

宮部 いや、そういう可能性もあるっていうだけだよ。もちろんクスリやってたなんて思っていない。

鹿島 しかし、大したもんだよ、あいつは。そんな重病背負って16年間やり続けてた騎乗フォームまで変えて関東リーディング7位。やっぱりあいつ天才だ。

宮部 悔しいな、ちきしょう。

藤堂　　なんで俺にも相談しないんだ、あの馬鹿。

黒田　　やはり、そこはなかなか言えないことでしょう。だって話を聞いている限り、彼は病気と向かい合いながらも騎手として生き残ろうとしてる。マドレアの件がなければ、鹿島先生にも話さなかったでしょう。よくぞ、言った、そんな気がする。

鹿島　　でも、どうもすっきりしないのは、そこまでして頑張った立見がどうして急に自殺なんてことを考えたってところだ。

宮部　　確かにそうだ。

藤堂　　病気の重圧に耐えきれなくなったとか……。

鹿島　　それはありうるけれども、どうもしっくり来ない。まったく乗れなくなったっていうならわかるけど。こっちが気付かないくらいちゃんと乗れてたかな。

鹿島　　エージェントの小手川さんが病気については発言するのがベストだと思う。

宮部　　小手川さんにも話してなかったということはないよね？

鹿島

それは聞いてみないとわからない。

藤堂

エージェントは騎手のマネージャーみたいなものだ。知らなかったということはないんじゃないか？

宮部

今頃、対応に追われてるだろうね。

藤堂

小手川さんなら立見の死をはっきり確認するはずだ。おれもさつき聞いたばかりで実感がない。

宮部

それは藤堂先生、私も同じ気持ちだ。

黒田

馬場で乗っている騎手を見てるが、立見君はまだ発見できないね。

藤堂

黒田オーナー、立見探してるんですか？

黒田

そうだ。

藤堂

私も探します。

藤堂、肩にかけている双眼鏡で馬場を見始める。

エージェントの小手川が入ってくる。

小手川

おはようございます。

宮部

おお、小手川さん。

小手川　　すいません、いろいろとお騒がせしております。

鹿島　　いま、ちょうど小手川さんの話をしていたところだ。

小手川　　私の話ですか。

鹿島　　いろいろと大変だろうと。

小手川　　立見のご家族から連絡があり、警察署に4時頃、うかがいました。

鹿島　　正式発表前か？

小手川　　はい。

宮部　　立見は？

小手川　　警察署の霊安所で会いました。ご家族が本人だと確認したあとです。私も確認しました。

鹿島　　……。

小手川　　思ったよりもきれいな顔をしていました。立見はとても残念ですが、亡くなりました。

黒田、藤堂、双眼鏡を下ろす。

黒田　　間違いありませんか？

小手川　　間違いありません。

藤堂 自殺の理由は？

小手川 わかりません。

鹿島 ……。

小手川 鹿島先生、今後予定されていたすべての立見の騎乗
予定ですがキャンセルさせていただきます。

鹿島 わかった。

小手川 藤堂先生、宮部先生、申し訳ありませんがすべてキ
ャンセルをお願いします。

藤堂 わかった。

宮部 うん。

小手川 それでは。

黒田 君、ちよつと待って。

小手川 はい。

黒田 いま、先生方、馬場に出ていたり外厩（がいきゅう）
（う）に行っていて不在な方が多いでしょう。調教
時間が終わってから、伝えたらどうかね？

小手川 ええ、それは構いませんが……。

黒田 立見君のこととちよつと聞きたい話もあるから。

小手川 ……わかりました。黒田オーナー。

小手川、一段目の位置に座る。

小手川、顔を両手で覆う。

宮部 （小手川に）急だもんなあ。私も信じられないよ。

小手川 ええ。

宮部 立見君のエージェントもう何年だっけ？

小手川 今年で4年目でした。

宮部 4年かあ。敏腕エージェントがついて、立見君もだいぶ助かっただろうね。

小手川 いえいえ。

宮部 謙遜することないよ。小手川さんが担当してるのは、ラドクリフ、立見、福原なんだから。3人ともトップレベルの騎手だ。あなたの腕が見込まれているということだよ。

小手川 しかし、立見がこんなことになってしまいました。一番そばにいたであろう私が、支えになることができなかった。エージェントとして失格だと思っています。

宮部 立見のことは小手川さんのせいではないよ。あまり

り自分を責めないでほしい。

小手川

……。

藤堂

確かにそうだ。小手川さんは厩舎を回り、調教も見て、立見が乗れそうな馬を一生懸命探してた。そのおかげがあつて、立見はリーディング争いに加わり、G1をいくつも勝った。立見は感謝はあつても不満は何もなかったと思う。

小手川

いえ、私が非力だったんです。そして最後がこんなことに……。

鹿島

小手川さん。あなたのせいじゃない。

小手川

……。

黒田

さっき、スポーツ新聞の記者が来てね、先生方も私いろいろ聞かれていたところです。

小手川

私は競馬専門紙、馬コレの記者ですが、専門誌なので何もお聞きすることはありません。

黒田

わかってる。むしろいろいろ聞かれてしまうのは君のほうでしょう。

小手川

はい、そうなると思います。

宮部

立見との思い出はいろいろあるよ。デビューしたと

き、彼は最初に私の厩舎の見習い騎手になった。私も、調教師になったばかりで、調教、飼い葉（かいば）、馬装具（ばそうぐ）、一頭一頭どうすれば勝てるか、真剣に話し合った。競馬に対する探究心がデビュー当時からすごくて、こいつは伸びるな、と思ったもんだよ。

藤堂

おれは、立見とは6年ほど騎手として戦った。礼儀正しい男で、挨拶も忘れなかったから、後輩騎手とせずいぶん可愛がった。デビュー当時は馬を追う技術はまだまだだったけど、仕掛けるタイミングにセンスがあった。新人騎手賞はこいつかな、と思ってたら本当に取った。あいつが初めて取ったG1が皐月賞（さつきしょう）で、そのときおれは二着だったけど、負けたのに嬉しくて、おれが右手を差し出したら、がっちり手を握り返してきた。常にフェアプレーだったし、本当にいい騎手だった。

黒田

私が望むのは、そんな立見君の死が、新聞に悪く書かれないことだ。私だってG1祝勝会で、幾度となく彼と握手を交わした。あの男を悪く書かれるわけ

にはいかないんだ。

小手川 ……はい。

鹿島 立見の病氣の話だけど、公表するのか？

小手川 病氣？

宮部 えっ、もしかして、立見から聞いてない？

小手川 なんですか、病氣って。

宮部 そう来たかあ。

鹿島 立見のご家族から何か聞かなかったか？

小手川 いえ、何も聞いていません。

黒田 うーん、エージェントにも話さなかったわけか。

小手川 あ、何なんですか、病氣って。

鹿島 ……。

黒田 どうする、鹿島君。

鹿島 どうする、と言われましても……。

宮部 小手川さん、最近、立見、見てておかしいところはなかった？

小手川 おかしいところ？

宮部 今までとなんか違うなあってところ。

小手川 騎乗フォーム変更以外ですか？

宮部 うん、それ以外。

小手川 小さなことでもいいですか？

宮部 構わない。

小手川 鎧（あぶみ）のベルトが日に日に長くなりました。

藤堂 たぶん、フォームの維持が難しかったんだ。だか

ら鎧（あぶみ）のベルトを長めにして、安定性重視。
視。

小手川 あと、小さなことですが、ホットコーヒーを右手で
持たなくなりました。

宮部 ホットコーヒー？

小手川 彼はいつもホットコーヒーは右手に持って飲んでい
たんです。それが今年の冬あたりから両手で持つよ
うになりました。

宮部 なるほど。

小手川 左手が、かじかむのを防ぐためかと思っていました
が、春になってもずっと両手でした。

藤堂 ふーん。

小手川 あの、立見は何の病気を抱えていたんでしょうか？

鹿島、黒田を振り返って見る。

黒田、うなづく。

鹿島

これは、俺が立見から聞いた話だが、立見は難病を患っていた。全身の筋肉が徐々に落ちていく病気だ。進行速度は人それぞれだが治せる薬は今のところない。

小手川

難病……。

小手川

では、自殺の原因は？

黒田

その病気だったという可能性は十分ある。

小手川

……。

宮部

立見にとって、騎手は人生だ。それを病気で絶たれてしまう。相当にショックだったと思う。

小手川

しかし、立見はなぜ、エージェントの私にそれを教えてくれなかったんでしょうか？

黒田

これは私の推論だけれどもねえ、エージェントの君に病気の話をしてしまったては、君が立見を先生方に勧めづらくなる。それは避けたかったんじゃないかねえ。彼は病気を抱えてもなお、騎手だったわけだ

から。

小手川

……。

宮部

立見は勝利数が上がらないのを小手川さんになんて

言ってたの？

小手川

スランプだと……。

宮部

スランプ？

小手川

最近、自分が思うとおりの競馬ができない。イレ込む馬を抑えきれないと……。

宮部

なるほどなあ……。

藤堂

病氣の話が本当だとすると、決して小手川さんに嘘はついてないな。

小手川

騎乗フォームまで変えていたので、私はいろいろ模索しているのだと思っていました。

黒田

聞いただけでもぞつとする病氣だ。立見君もこわかっただろうねえ。なんであの有望な騎手にそんな病氣が……。

藤堂

おれのおふくろはがんで亡くなったが、検査が終わるまで元気でした。でも、いきなり末期がんの診断を受けて一辺に様子が変わった。病氣というのは、

いきなり襲い掛かってきて、本人も家族も一変させるものだと思った。

宮部

おれも、もしそんな病氣にかかってしまったら、最悪なことを考えてしまうかもしれない。

鹿島

小手川さん、病氣の件は俺には話してきたから本当だと思う。あいつにとっては一番周りに知られないことだったかもしれないが、もうこういう事態となれば隠しておくのも不自然だろう。マスコミに公表すべきだと思うけどどうだ？

小手川

ご家族の許可は？

鹿島

知らなかったらどうする？ それにおれはこの病氣の件は公表してほしい。そうしないと、あいつの最後の理由が違うものになってしまう。

小手川

最後の理由。

鹿島

お前も聞いたことがあるだろう。立見が薬物をやっていたという噂だ。

小手川

……ああ、それですか。

鹿島

確かに立見はこの病氣を背負ったであろうときから、様子がおかしい日がたびたびあった。ハイテン

シヨンで声が大きくなり、自信過剰になる。そんなときは何やら目もうつろだった。

小手川 最近、ずっと流れている話で、私も聞いていましたが、確たる証拠は何もありません。

宮部 いや、あの立見が違法薬物になんて手は出さないだろう。清廉潔白（せいれんけっぱく）の代表的のような人間だぞ。

藤堂 おれは、その病気で使う治療薬の副作用だったんじゃないか、と思ったりするけどな。

宮部 なるほど。

鹿島 小手川、マスコミたちはおそらくみな、薬物死を疑ってる。病気のことを知らないやつらは、この自殺の原因を薬物にしたいんだ。そのほうがスcoopになるからな。

小手川 何の確証もないのに、憶測だけで書かれても困ります。

黒田 立見はフェアプレー賞8回。正直でまっすぐ。人間として悪いこともない。仕事ぶりも見事。そういう真っ白のキャンパスにはなあ、黒い墨をつけてやろ

うと狙う人間もいるんだよ。

小手川 黒い墨が薬物使用ですか？

鹿島 さつき、東西新聞の曾根が、自殺の原因が解明されないなら、薬物疑惑で書くと言ってた。

宮部 マスコミにそんなことさせてたまるか。

小手川 鹿島先生、病気の件、公表しましょう。そうすれば何の確証もない薬物疑惑の報道は、一面に大きく書かれることはないと思います。

鹿島 そしたら立見本人から聞いたおれが言うしかないか。

小手川 お願いします。

鹿島 うん。

曾根、草加、永野がスタンドに来る。

草加 (小手川を見て) 本当だ、いた、いた。

永野 小手川さん。

曾根 (小手川に) ここにいらっしゃいましたか。

小手川 あの、私は何もお話しするつもりはありませんの

で。

草加

ちよつと待ってください。そういうわけにはいかないです。あなたは立見騎手のエージェントだ。立見騎手の最近の様子については一番詳しいはずです。

鹿島

下に行つて、何か、自殺につながるようなネタは拾えたか？

永野

いえ、これという確証を得ることは何もできませんでしたが、最近、極端に気分が沈んでいたり、興奮状態だったりしていた、という証言は得れました。

草加

（小手川に）単刀直入に聞きますが、小手川さん、何か立見騎手が自殺するような原因わかりませんか？

小手川

最近、調子を落として、フォームを変えるなど、いろいろ模索していたのは知っています。

曾根

そんなことは私たちもわかってるんですよ。プライベートで何かありませんでしたか？ 恋人がいたとか、何か悩んでいることがあるとか、何でもいいんです。

小手川

いえ、私には特に悩みを打ち明けるといふようなこ

とはありませんでした。

曾根 本当ですか？

小手川 本当です。ただ今知ったことはあります。

曾根 いま？

小手川 鹿島先生から聞いた話です。

曾根 鹿島先生、何ですか？

鹿島 ……立見は難病を患（わづら）っていた。

曾根 難病？

鹿島 発症すると2年から5年の間に全身の筋肉が無くな
っていく病気だ。

永野 まさか……。

鹿島 そのまさかだ。立見は騎手人生はおろか生きていら
れるかどうかかわからない病気にかかっていた。去年
の秋、立見本人からおれが聞いた話だ。

永野 そんな……。

草加 では自殺の原因は、その病気が発端（ほったん）に
なった可能性が高いということですか。

鹿島 おれは極めて高いと思う。あいつには競馬しかなか
ったんだ。馬に乗るのはおろか、馬の近くに寄るこ

とさえできなくなる。

曾根　うーん……。

草加　何、曾根さん、何か納得いかないの？

曾根　いや、そんな重大な病氣にかかっていることはまったく知らなかった。

鹿島　この病氣の話を立見がしたのはおれだけで、小手川さんには何も言っていない。

曾根　なぜ、鹿島先生だけに話したんです？

鹿島　マドレアに乗ってたからだ。海外遠征を控えている馬に病氣の不安がある自分が乗るわけにはいけないからマドレアから下ろしてくれという話だった。

草加　それで、鹿島先生は、マドレアの騎乗をラドクリフ騎手へ替えたわけですか？

鹿島　ああ、そうだ。何もなければ、立見で海外遠征する予定だった。

曾根　では黒田オーナーは、その話を聞いていたんですか？

黒田　鹿島先生から聞いたよ。去年の冬にね。

永野　（黒田に）なぜ、立見騎手が病氣の話を他の方には

しなかったと思われませんか？

黒田

（永野に）そりゃ、君もわかるだろう。病気だつて話が広がってそれが治らない病気で早かれ遅かれ引退するとわかったら、馬主も厩舎も、将来代わりになる別の騎手に馬を乗せる。立見の騎乗依頼は病気のことを話してしまったら、確実に減る。

永野

病気と戦って、まだ騎手であることをあきらめなかったというわけですね。

黒田

そうなるだろう。立見君は最後の最後まで馬に乗り続けたかったはずだ。

草加

そんな病気を抱えているなんて、まったく想像してなかった……。

鹿島

だから、確証のないものを立見の死の原因にしないでくれ。あいつは絶望の中にいて、必死に戦ってたんだ。

永野

自殺の原因は病気……。

鹿島

その可能性は十分にある。生前は、病気のことはおれ以外誰にも話さなかったようだが、もう立見は亡くなった。重病を抱えていたと自殺の記事の欄に載

せてやってくれ。

曾根 それはあくまで鹿島先生の推測ですよ？

鹿島 何が言いたい。

曾根 わたしは薬物が原因だったとにらんでいます。

藤堂 だから、もうその話はやめろ。

黒田 東西新聞さん、病氣の話をしてはまだ、薬物が関係していると思うなら、証拠出してくれ。こつちとしてはなあ命がけで馬に乗っていた騎手をおかしな話で塗りつぶされるわけにはいかないんだよ。

曾根 証拠と言えるかどうかはわかりませんが、薬物のバイヤーと歩いている写真があります。

曾根、カバンから写真を一枚取り出す。

黒田にその写真を見せる曾根。

曾根 こちらの右側で帽子をかぶっているのが立見騎手。左がその筋では有名なバイヤーです。

黒田 こんなもの証拠にならんよ。

曾根 そう思いましたので、この写真を立見騎手に見せ

て、直接私が話を聞きました。

黒田 何だと！

曽根 報道班からほぼ黒で間違いないとお墨付きもいた
だいていましたので。

（回想）

立見が舞台前に歩いてくる。

その立見に近寄っていく曽根。

立見 ああ、曽根さん、何です、話して。

曽根 いや、実は、ちょっと気になることがあって、立
見さんに話を聞いてみようと思って。

立見 何の話ですか？

曽根 この写真に写っている君と歩いている男なんだけど
知ってるよね。

立見 ……。

曽根 その感じだと知ってるね。もう勘付いていると思
うけど、君には、薬物使用の疑いがささやかれてい
る。どうして薬物なんだ？

立見 この横の人、私、知りませんよ。

曽根 知らない人とこんなに寄り添って普通歩かないですよ？

立見 普通の道ですから、並ぶこともあるでしょう。

曽根 立見さん、薬物なんてやめましょうよ、大変な騒ぎになりますよ。

立見 曽根さん、私は薬物になんて手を出していません。
曽根 でもね、この写真だけじゃないんです。

曽根、胸ポケットから数枚の写真を取り出して、
て、

曽根 見てみてよ。これも、これも、あなたは定期的にこの男と会ってる。ずっと張ってるんですよ。報道班。これだけでも疑惑として記事にできるくらいです。

立見 ……。

曽根 バイヤーだってわかってるよね。

立見 ……いえ。

曾根　まあ、認めないだろうね。おれは君の反応が見たか

ったんだ。これでほぼだいたいわかりました。

立見　わかりました、ってどういうことですか？

曾根　あなたは限りなく黒に近いということです。

立見　決めつけないでください。

曾根　立見さん、完全な証拠掴まれたら、騎手人生が終わります。よく考えてください。

立見　……。

曾根　それでは、また。

曾根、立ち去る。

立見、何度も渡された写真を見る。

険しい表情をする立見。

立見、力なく去る。

曾根が戻ってくる。

草加　曾根さん、掴んでるネタ、立見騎手にばらしたんで

すか？

曾根　ばらしたよ。

草加 どうしてです？

曾根 ……。

黒田 それ、いつの話だ？

曾根 三日前です。土曜のレースが終わってからです。

小手川 次の日曜日のレース、立見は体調不良で全騎乗キャンセル。昨日はトレセンはお休みですが、連絡は取

れませんでした。明らかにおかしかった。

宮部 君がそんなことをしたから、立見は自殺したんじゃないのか？

藤堂 そうだ、それが関係してる。

曾根 ええ、私が殺してしまったようなものかもしれない。
ん。

藤堂 貴様！

藤堂、立ち上がり、曾根の胸倉をつかむ。

鹿島と宮部が必死に止める。

曾根 みなさん、知らなかったとは言わせませんよ。クスの話は相当に、噂になっていたことです。

黒田 白いキャンパスに、黒が入った……。

永野 では、自殺の原因は……。

鹿島 藤堂先生、落ち着いて。（藤堂に）手を離して。

藤堂 くそっ！

藤堂、曾根を突き飛ばすようにして手を離す。

草加 経緯として聞くだけだと黒になってしまいましたね。

永野 その話がまったく関係なければ、自殺はしない。

全員 ……。

草加 薬物使用発覚による自殺……。

藤堂 やめろ！

草加 東西新聞社さんは、夕刊どうするんです？

曾根 報道班が薬物に関しては、黒だとにらんでる。デイスポーツさんと、宝徳新聞はどう報じるんだ？

永野 とりあえず、死病に侵（おか）されていたことは報告します。これは皆さんの話を聞く中で絶対に揺るがないことかと思いますので。

草加　うちもまずそれは掲載する。

鹿島　立見は、死をもって、薬物のことを償ったのかもしれない。これはお願いになるが、薬物の件は、公表しないでほしい。

宮部　おそらく立見は、騎手として、致命的な病気に相当の恐怖を抱いて、立ち向かっていたはずだ。その恐怖を和らげるために、薬物に走ったのかもしれない。

草加　うちは何もかぎつけてないので、薬物の件は書きたくても書けません。

永野　病気の辛さと薬物の件が合わさって自殺したというのが真相かもしれませんね。

曽根　おれは、人は重大な決断をするとき、一つの理由だけでは動かないと思ってる。必ずいくつかの要因が合わさってる。

草加　病気の件だけで片づけるのは楽ですけどね。

黒田　白すぎるんだよ、あいつは。

草加　白？

黒田　そう生真面目で正義感が強くて、ストイック。私は

宮部

彼に会うたびに思ったもんだよ。はたいても埃が出ない人間は珍しいと。そういうやつにとって、何か失敗したときの罪悪感は普通の人間よりも大きい。

もう一つ、自殺の要因があるとすれば、その人間性にあるかもしれない。多かれ少なかれ、人は罪を起こし、その過去に引け目を持っている。それでも大したことはないさ、と自分に言い聞かせ前に進んでいく。立見も同じ人間だ。罪悪感を持つときもあつたろう。でもずっとこれでいいのか、と思い詰めてしまうのが立見の性格だった。

鹿島

薬物使用という罪悪感を背負ったことが立見にはなかったのかもしれない。

藤堂

騎乗ミスを起こした時の立見の反省の仕方は半端なかった。自分を責め続ける。レースで斜行（しゃこ）して、騎乗停止処分を受けたときの立見はいつも思い詰めていた。あいつは完璧でありたかったんだよ。だからおれが現役時代るとき、あいつに言ったことがあった。「騎乗停止なんてどんな騎手でもたまには受ける。騎乗停止処分を受けてもケロッと

してるやつがたくさんいるんだから、お前ももっと
「気楽に考えろ」と。でも、それができない人間だっ
た。

黒田

彼に比べたらねえ、私なんて黒だらけですよ。真面
目すぎたんだ立見君は。白いキャンパスについた明
らかな黒に耐えきれなかったのかもしれない。

永野

小手川さん、立見騎手の遺書などはみつからなかつ
たんでしょうか？

小手川

遺書はなかったと聞いています。

草加

病気がなければ、立見騎手は、薬物なんかに出
さなかったかもしれませんね。

鹿島

ああ、絶対やらなかったと俺は思う。

永野

でも、厳しいことを言うようですが、重い病気にか
かったからといって、薬物に手を出すのは、世間一
般的にも法的にも許されることはありません。

黒田

永野くん、それはみんなわかってるよ。

永野

……。

鹿島

騎乗フォームの件、一階で聞いてきたんだろ？ み
んな何て言ってた？

永野 厩務員さんや調教助手さんには、外国人騎手のパワ

ーに負けないためだと話していたそうです。

鹿島 病気を患っていることを家族にも言わなかったくら

いだ。騎手を続ける上で絶対に話してはいけないことだったんだろうな。だから周りに相談できなかった。おれも情けない。病気を知っていながら、何もしてやることができなかった。

小手川 それを言うなら私です。エージェントとして一番近

くにいながら、何も悟れなかった。

曾根 自殺までするとは思わなかった。私の責任です。

黒田 立見君を死に追いやったのは、君だけではありませ
んよ。

曾根 どういう意味です？

黒田 秋の天皇賞とジャパンカップのあと、祝勝会を経て
立見君は私のところに来ました。

（回想）

立見が舞台前に入ってくる。

ゆっくりとひな壇を下がる黒田。

黒田 立見君、私のオフィスに来るなんて初めてだね。

立見 いきなり押しかけまして本当に申し訳ありません。

黒田 ああ、いいよ。今日はちょうど時間もあつたから。

立見 今日はお願いがあつてうかがいました。

黒田 お願い？

立見 私はいま、病気を患っています。

黒田 うん、それは鹿島先生から聞いた。

立見 最初はどうなることかと思いましたが、完全とはいかないまでもまだ馬には乗れています。

黒田 そうだね。マドレアの秋の天皇賞、あの騎乗は素晴らしかった。中団の内側でひっそりと待機。一番人氣でマークも厳しい中、君は、じつと経済コースの内側で我慢。第4コーナーも外からかぶせられて、一瞬ひやつとしたが、君は何とか一頭入れる隙間をみつけて躊躇なく突っ込み、綺麗に大外（おおそと）まで馬を出した。最後は2着と2馬身半差の完全勝利。あれはね、普通のジョッキーじゃできません。

立見 ありがとうございます。

黒田 とても病気を患っているなんて思えない見事な騎乗

でした。

立見 はい。

黒田 お願いとは？

立見 マドレアから下りると、鹿島先生に直訴（じきそ）
したのは私なんです、この様子なら、なんとかい
けそうな気がするんです。

黒田 うん。

立見 私は競馬界に何のゆかりもないごく一般のサラリー
マン家庭で育ちましたが、父親に連れられて競馬を
見て騎手になりたいと思い、この道に入りました。

黒田 うん。

立見 最初は騎手としてやっていけるのか不安でしたが、
不安があったからこそ、他の同期たちより頑張り鍛
錬を積み、G1レースもいくつも勝たせていただき
ました。

黒田 そうだね、君はG1レースでは乗らないことはない
というくらい競馬に携わるすべてのホースマンたち
から信頼を持たれている。

立見 しかし、進行性の病気を患い、この先、どうなるかわかりません。医者からは騎手は100%続けられなくなると言われています。

黒田 ……。

立見 私の騎手としての最初の夢は、G1レースで勝つこと。その次の夢が日本ダービーに勝つことでした。そして、その夢は何とか達成できました。

黒田 ああ、見事だよ。誰もが認める一流ジョッキーだ。しかし、まだあと一つ、夢を叶えられていません。

黒田 ……。

立見 私の最後の夢は凱旋門賞で勝つことです。

黒田 うん、凱旋門賞勝利は日本競馬界の悲願でもあります。

立見 その悲願なのですが、私に託していただくことはできないでしょうか？

黒田 ……。

立見 私には限られた時間しかありません。それをよくよく考えたとき、遠慮している場合かと思うようになってきました。もしかしたら、来年の凱旋門賞が私

の最後のレースになるかもしれません。

黒田

うーん、でもねえ、君が下りるということになってからエージェントを通じて、マドレアは来年からラドクリフに頼むと打診してしまっているんだよ。あれだけの馬の騎乗を今から断るというのは、なかなか難しい。

立見

それは承知の上でお願いにうかがっています。

黒田

いや、一度、頼んでしまった以上、それは無理だ。

立見

マドレアのことを一番よく知っているのは僕です。デビュー前から才能を見抜いて、調教からずっと乗り続けてきました。オーナーが納得いく結果も残してきたと思っています。どうかマドレアと一緒に凱旋門賞に行かせてください。私の最後の願いです。

黒田

いや、でもねえ……。

立見

やはり病気がネックになりますか？

黒田

それよりも、一度、他にお願いしてしまったというのがある。

立見

私の最後の夢なんです、どうかお願いします。

黒田

待ってください。

立見、腰を落として土下座をする。

立見　どうか、どうか、私の最後の夢を、お願いします。

黒田　立見君、土下座なんてやめてくれ。君は結果を残してきた。それには満足しているし、頭を下げたいのは私のほうだよ。土下座はやめてくれ。

立見　どうか、どうか、お願いします。

黒田　……。

立見　どうか、どうか……。

黒田　君もわかっていると思うが、マドレアには鹿島先生含め、の人間が関わって、調教を積んでいる。私、一人の独断でどうにかなるような馬でもなくなってきた。気持ちにはわかるが、まずは立ち上がってくれ。考えてはみるから。

立見　……はい。

黒田、立見を抱き起す。

少し、ふらつく立見を黒田が支える。

黒田 大丈夫か？

立見 大丈夫です。今のは何でもありません。

黒田 ……。

立見 お忙しいところ、お邪魔をしました。

立見、一礼して去る。

黒田が、元いたひな壇（スタンド席）の位置
に戻る。

黒田 その一週間後、小手川君に連絡して、春からは予

定どおりラドクリフで行くと伝えた。

全員 ……。

黒田 私がね、彼の命をかけた最後の願いを絶ってしまっ
たんだよ。それが彼にどれだけの絶望を与えたか、
はかりしれない。私はマドレアのオーナーだ。立見
で行くと腹を決めれば、乗せることはできた。

鹿島 そのお話、私も初めて聞きました。

黒田 相当に悩んだよ。情を取るのか、勝負を取るのか。

鹿島
……。

黒田
総合的にいろいろ考えた結果、私は勝負を取った。
マドレアを凱旋門賞で勝たせるために。

全員
……。

黒田
だから、私にも責任はあるんだ。

鹿島
それを言うなら、私も同じです。立見はいずれ乗れなくなる。だから、将来があると見込んだ馬は、若手の騎手を起用しました。

全員
……。

鹿島
私もホースマンとして勝負を選びました。

全員
……。

鹿島
あれだけ、うちの厩舎の馬に貢献してくれた騎手を私は下ろした。ひどいやつだと自分でも思う。

全員
……。

藤堂
立見はプロの騎手として16年間やってきた。情

(なさけ)が通る世界じゃないということは、十分承知していたはず。

小手川
私もそう思います。他の騎手の馬を立見が乗ることになる。彼はいくらでも経験してきました。そんな

ことで立見は死なないと思います。

宮部 わかっていたけど、立見には時間がなかった。だから、

必死になっていたんだと思う。

黒田 しかしねえ、まったく関係なかったと言い切れな

いんだよ。あのときの彼の様子を思い出すと。

小手川 病気によって、立見はいろいろなものを失わなければ

ならなくなった。わかっているけど、耐えきれな

ったのかもしれない。

永野 そこへ来ての薬物使用だったのかもしれないね。

草加 だいたいの理由はわかってきました。病気から始ま

ったの自殺だった、というのが本筋でしょうね。

永野 曽根さん、それでも薬物使用の件、出しますか？

曽根 ……。

藤堂 もう亡くなった人間を責めても意味ないだろう。証

拠はないんだろ？

曽根 ええ、決定的な証拠までは。

黒田 それなら、その件、もう下ろしなさいよ。

宮部 極限状態の中、立見は薬に逃げたのかもしれない。

藤堂 でも、おれたちは、それを悪だと決めつけられるの

か？

全員

……。

曾根

はっきり言いますよ。私は立見さんにジョッキー続
けてほしかったんですよ。薬物なんかで潰されちゃ
いけない騎手なんです。私は忠告したんですよ。そ
れで彼が苦しむのはわかってた。でも、すべてが終
わるよりは良いと思った。

草加

記者の中で、一番、立見騎手のことを考えていたの
曾根さんなんじゃないんですか。あなたは立見を競
馬界追放から守ろうとしたんだ。

曾根

最初、立見騎手の薬物疑惑が流れたとき、そんなは
ずはないと思った。だから、白を証明するために報
道班に連絡して調べさせた。なぜ、あの正義感の強
い男に薬物の噂が出るのか、さっぱりわからなかつ
た。

永野

曾根さん……。

曾根

そよ風を身にまとっているような男で、取材に行く
と出走馬の状態をうそ偽（いつわ）りなく、全部正
直に話してくれた。怒られたときもあった。「曾根

さん、俺があれだけ馬の状態がいいって言ってたのに、何で僕の馬に本命打たなかったんですか」と。

鹿島

立見らしいな。

曾根

ドバイや香港に海外遠征に行ったときも一緒についていった。コースの芝を歩いて、芝の長さや、コースの形状を丹念に確認してた。日本の騎手は世界レベルであることを証明してやるんだいつも言ってた。本当に競馬を愛している男なんだな、と思った。

鹿島

……。

曾根

札幌や函館開催のときは、うまい海鮮丼やラーメン屋を教えてもらった。一緒に飯を食べに行った時もあった。立見騎手が自殺したなんて、取材してても何の実感もない。彼はまだ生きている、そう思いたい。

藤堂

皮肉なもんだな。助けるつもりが、あいつを追い詰めることになった。

曾根

決定的な証拠があるわけじゃない。でも、黒に限り

なく近い。だから、表沙汰（おもてぎた）になる前に止めるつもりだった。

黒田
それが引き金になったかもしれないが、すべて病氣から始まったことだと推察しますよ、私は。

曾根
……。

草加
そろそろ報道部に送る情報をまとめようかな。

永野
そうですね。夕刊までには間に合わせたいですし。

曾根
……私も病氣の件のみでいきます。

黒田
曾根君、ありがとう。

曾根
礼はいりません。取材させていただいた結果、病氣のことがわかり、そのあとの立見騎手の動き、周囲の動きまで把握できました。元々私は彼を悪くは書きたくなかったんです。こちらこそ助かりました。

黒田
うん。

宮部
それにしてもなあ、立見がもういないなんてまったく実感がないなあ。おれは悪い夢でも見てるんじゃないかな。

小手川
夢のほうがいいですね。

鹿島
立見と話した海外遠征への夢を思い出す。あいつは

ほんとに熱かった。

（回想）

立見が入ってきて、鹿島の横に座る。

立見 鹿島先生、おれには夢があるんです。

鹿島 夢？

立見 はい、日本馬で凱旋門賞に勝つことです。

鹿島 そうだな、日本の競馬は世界一だと認めさせたい。

立見 外国人ジョッキーの間では、日本馬はいつか凱旋門を勝つと言っていますが、まだ実現には至っていません。

鹿島 そうだな。日本馬も香港、ドバイ、欧州のレースにどんどん出るようになったが、凱旋門制覇はまだだな。

立見 マドレア、行けると思うんです。

鹿島 まだデビューしたばかりだぞ。

立見 いえ、あの馬はすごいです。背中の柔らかさが他の馬と違いますし、加速すると、馬体（ばたい）が沈

み込んで、一気に加速します。この馬なら狙えます。

鹿島

まあなあ、血統的に距離ももつだろうし、牝馬というのが大きい。凱旋門賞、オス馬は過去10年で優勝馬は3頭。メス馬は7頭。牡馬（ぼぼ）の負担重量59・5キロ。牝馬（ひんば）58キロ。この差は大きい。

立見

1・5キロの差があれば、一馬身以上、先に先着できます。マドレアはメス馬（うま）でも大型の馬体、ロンシャン競馬場の深い芝もパワーで乗り切ってくれると思うんです。

鹿島

マドレアにそこまで可能性を感じるか？

立見

乗っていてわかります。私が今まで乗ってきた馬で資質はナンバーワンです。

鹿島

実際、乗ってる立見が言うんだからそうなんだろうな。俺ももちろん凱旋門賞は勝ちたい。

立見

マドレアで凱旋門賞狙いましょう。それだけの馬です。

鹿島

ずっと凱旋門賞、勝ちたいって言ってたもんなあ。

立見 はい、私の最高の夢です。

鹿島 日本のホースマンたちは一流だと認めさせたいんだろ。

立見 そうです。馬主、厩務員、調教助手、装蹄師（そうていし）、調教師、騎手、獣医みんなホースマンです。日本のホースマンたちは世界一だと世界に認めさせたいんです。

鹿島 お前は日本の競馬界、全体のことを考えてるんだな。

立見 そうかもしれません。

鹿島 お前にそこまで言われたら、本気で凱旋門賞、勝ちにいくプランを考えないとな。ただし、日本でマドレアが、結果を出してからだ。

立見 私が意地でもマドレアを凱旋門賞に連れて行きます。

鹿島 そうだな、勝つんだという意気込みで行かないとな。

立見 そうです。凱旋門賞は夢で終わらせません。勝ちに行きます。

鹿島 うん、信念だな。勝つんだという信念。

立見 日本で最初の凱旋門賞優勝馬ホースマンになりましたよう。

鹿島 わかった。目標は凱旋門賞。そのつもりで調教つけていく。

立見 はい、よろしくお願いします。

立見、去る。

宮部 馬の資質を見抜いて、最初から凱旋門賞、狙ってたかあ。

鹿島 宣言通り、立見はマドレアに乗って、日本で勝ちまくった。これからという時に病気になった。どれだけ無念だったろうなあ。

藤堂 もったいない騎手を失った。本当にそう思う。

落馬を知らせるサイレンが鳴る。

宮部 落馬だ。

藤堂　　そうだ、調教見ないとな。うちが心配だ。ちよつと

下見てくる。

藤堂、スタンドから去る。

宮部　　さて、俺も坂路（はんろ）見てくるわ。

小手川　私も、立見の騎乗依頼のキャンセル、先生方に報告してきます。

鹿島　　おつ、みんな一斉になくなるのか。

宮部　　鹿島先生も悲しいと思うが、あまり自分を責めないで。

鹿島　　うん。

宮部、スタンドから去る。

小手川　（鹿島に）あのこの度は本当にすみませんでした。

鹿島　　君が謝ることじゃない。責任は私にもあるから。

小手川、鹿島にお辞儀をして、スタンドから

去る。

草加 取材終わりだね。

永野 そうなりますね。

草加 記事の準備しよう。

永野 私もそうします。鹿島先生、黒田さん、ありがとうございました。真相は究明できたと思います。

鹿島 うん。

草加、永野、スタンドから去る。

黒田 私も馬主席に戻る。少し、落ち着きたいと思う。

鹿島 わかりました。黒田さんも巻き込んでしまい、すいませんでした。

黒田 いや、いいんだよ。他でもない立見君のことだから。話しておきたいこともあったんだ。

鹿島 はい。

黒田 じゃあ、マドレア含め、私の馬をよろしく頼みます。

鹿島 わかりました。ご期待に沿えるように頑張りたいと

思います。

黒田 鹿島さんも、辛いと思うが、頑張ってくれ。

鹿島 わかりました。

黒田 それじゃあな。

黒田、スタンドから、去る。

しばらくの沈黙。

曾根 黒田さん、人の命って何でしょうね。

鹿島 ん？ 命？

曾根 あれだけ順風満帆（じゅんぷうまんぱん）だった立見騎手のような人間が突然、自殺してしまう。

鹿島 誰もがどうなるかわからない人生を生きているということだろう。その先に光があるのか、闇があるのか想像もつかないことが起こる。

曾根 鹿島先生、一つ見せたいものがあるんです。

鹿島 見せたいもの？

曾根 こちらです。

曾根、バッグから一枚の写真を取り出して、鹿島に見せる。

鹿島
これは？

曾根
立見騎手が薬物のバイヤーから麻薬の受け渡しを受ける瞬間をとらえたものです。

鹿島
……。

曾根
立見騎手とは長い付き合いです。私は彼がよく行くところは把握しているつもりです。報道班にすべて任せず私も調べていたんです。

鹿島
じゃあ、この写真、君が撮ったのか。

曾根
そうです。報道班に出せば、決定的な証拠になります。なので、出しませんでした。

鹿島
……。

曾根
でも、あの見せた写真だけで立見騎手は自殺してしまっただけです。

鹿島
君もホースマンなんだな。

曾根
ホースマン……。

鹿島 スクープ記事より、立見が騎手を続けられるほうを選んだ。

曾根 ……でも亡くなってしまいました。あんなにいい騎手を私は追い込んでしまったんです。

鹿島 小手川さんにも言ったが、責任は一人にあるわけじゃない。

曾根 ……。

鹿島 私にだって、十分責任はある。立見を馬から下ろしたんだからな。レースで勝つために。

曾根 悔しくて悔しくてたまりません。まさか自殺するとは思わなかった。俺は本当に悔しい。

鹿島 曾根さん……。

曾根 彼は、立見騎手は、日本競馬界が失ってはいけない宝だったんです。

鹿島 私もそうだと思う。

曾根 悔やんでも悔やみきれない。

鹿島 病気があいつの運命を変えてしまったんだよ。それは誰にも何もできない。

曾根 病気だった人間を私は追い込んでしまいました。本

当にすみません。

鹿島

……。

曾根

広い馬場に出て、空気吸ってきます。

鹿島

うん。

曾根、スタンドから去る。

鹿島、中空を見上げながら、

鹿島

立見、聞こえるか。俺はマドレアで凱旋門賞必ず勝
つからな。そして競馬に携（たずさ）わる日本のホ
ースマンが一流だと世界に認めさせてやる。それが
おれができる唯一の供養だ。

【幕】